

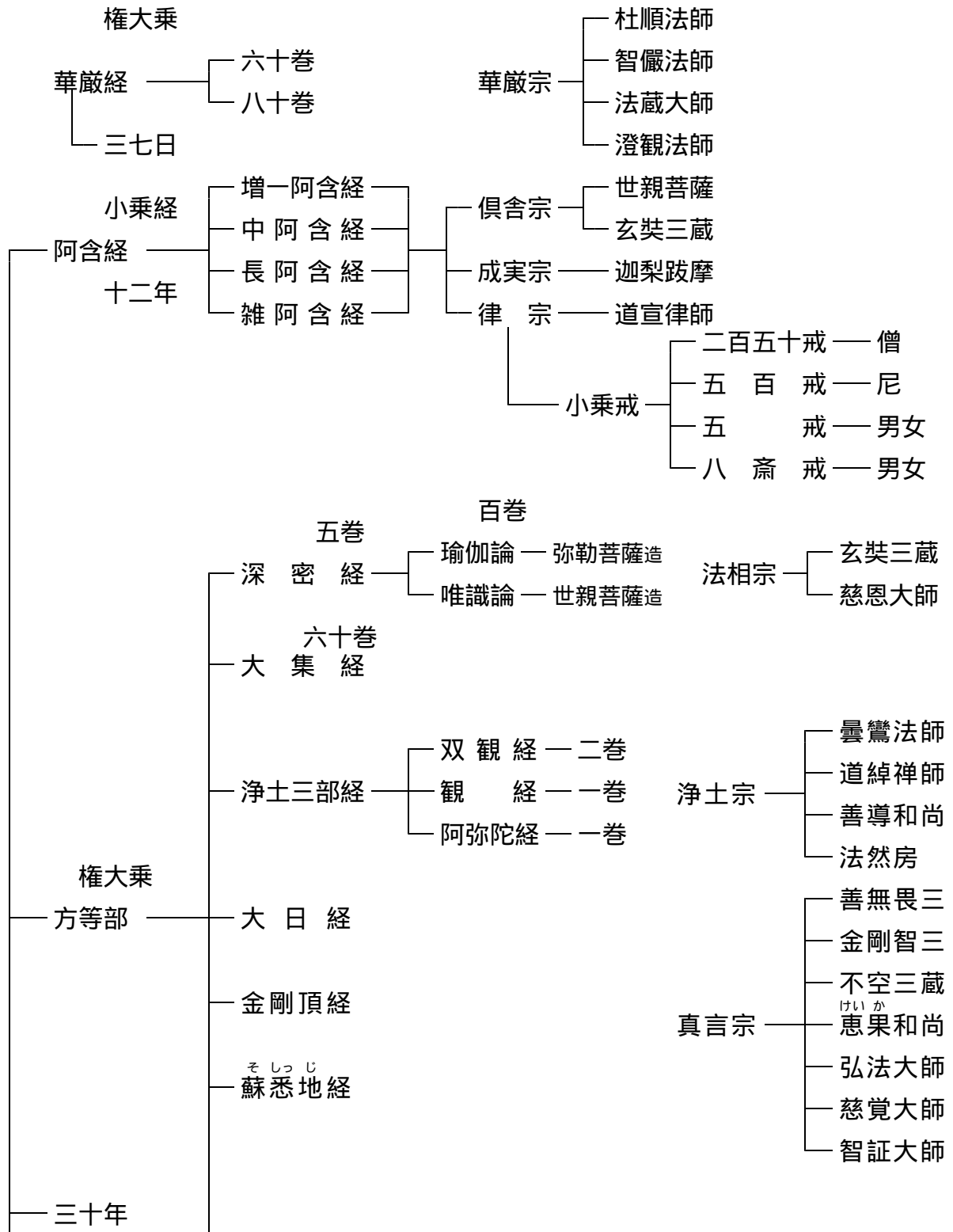
一代五時図

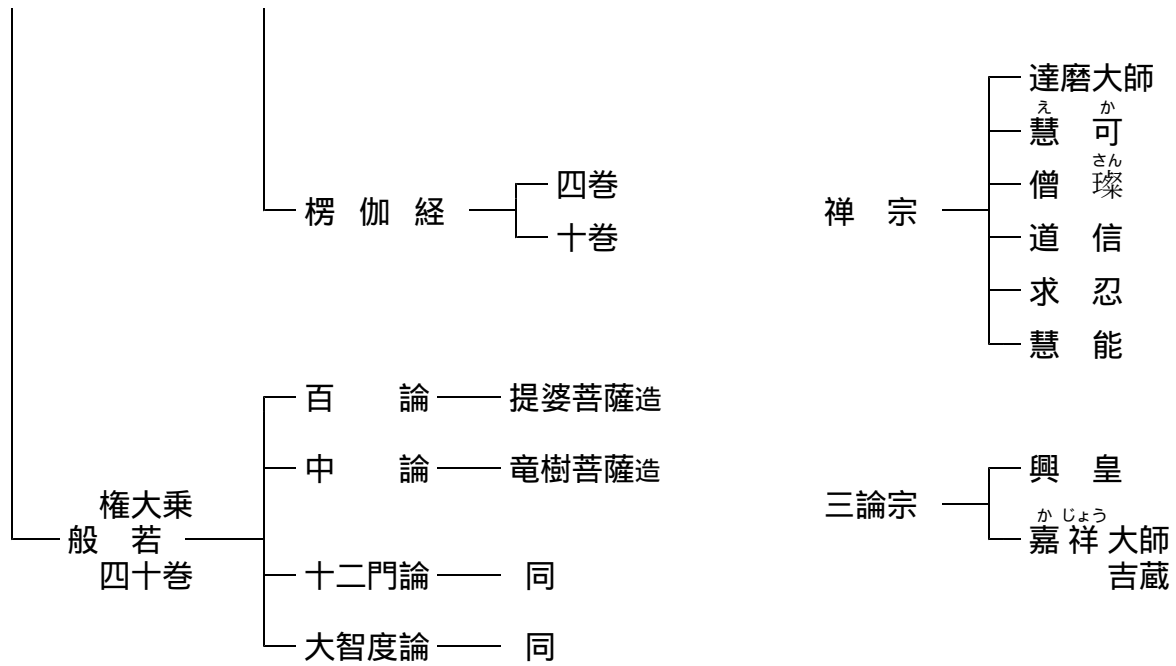
建治二年

五五歳

竜樹菩薩造

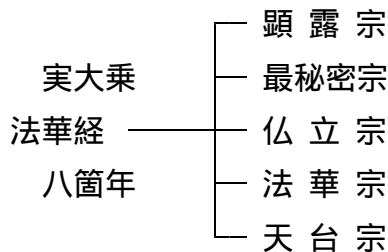
大論に云はく、十九出家 淨飯王の太子 三十成道 悉達太子





無量義經 七十二歳

「四十余年には未だ真実を顕はさず」。「方便の力を以て四十余年には未だ真実を顕はさず」。「無量無辺不可思議阿僧祇劫を過ぐれども終に無上菩提を成ずることを得ず。所以は何ん。菩提の大直道を知らざるが故に。険径を行くに留難多きが故に」。「大直道を行じて留難無きが故に」。



「世尊は法久しくして後に要^{かなら}ず当に真実を説きたまふべし」。「正直に方便を捨て、但無上道を説く」。「種々の道を示すと雖も其れ実には仏乗の為なり」。

「今此の三界は皆是我が有なり。其の中の衆生は悉く是吾が子なり。而も今此の処は諸^{げんなん}の患難多し。唯我一人のみ能く救護を為す。復教詔すと雖も而も信受せず」。「若し人信ぜずして此の經を毀謗せば、則ち一切世間の仏種を断ぜん。或は復鬻^{ひんじゆく}鬻して而も疑惑を懐かん、汝当に此の人の罪報を説くことを聴くべし。若しは仏の在世、若しは滅度の後、其れ斯くの如き經典^{ひぼう}を誹謗すること有らん。經を讀誦し書持すること有らん者を見て軽賤憎嫉して而も結恨を懐かん。此の人の罪報を汝今復聴け。其の人命終して阿鼻獄に入らん。一劫を具足して劫尽きなば更生^{また}じ、是くの如く展転して無数劫に至ら

ん」。此に於て死し已りて更にもうしん鱗身を受けん、其の形長大にして五百由旬ならん」。

「若し是の善男子善女人、我が滅度の後に能くひそ竊かに一人の為にも法華經の乃至一句をも説かん。当に知るべし、是の人は則ち如来の使ひなり、如来の所遣として如来の事を行ずるなり」。「薬王若し悪人有りて不善の心を以て一劫の中に於て現に仏前に於て常に仏をきめ毀罵せん、其の罪尚輕し。若し人一の悪言を以て在家出家の法華經を讀誦する者をきし毀皆せば其の罪甚だ重し」。「薬王、今汝に告ぐ、我が所説の諸經而も此の經の中に於て法華最も第一なり」。「我が所説の經典無量千万億にして已に説き今説き当に説かん。而も其の中に於て此の法華經最もこ為れ難信難解なり」。「若し法師に親近せば速やかに菩薩の道を得ん、是の師に随順して学せば恒沙の仏を見たてまつることを得ん」。

「爾の時に宝塔の中より大音声を出だしてほ歎めて言はく、善哉善哉釈迦牟尼世尊、能く平等大慧・教菩薩法・仏所護念の妙法華經を以て大衆の為に説きたまふ。是くの如し、是くの如し。釈迦牟尼世尊の所説の如きは皆是真實なり」。「諸余の經典数恒沙の如し。此等を説くと雖も未だ難しと為すに足らず。若し須弥を接して他方無数のな仏土に擲げ置かんも亦未だ難しとせ為す」。「若し仏の滅度に悪世の中に於て能く此の經を説かん是則ち難しと為す」。

「諸の無智の人のあつくめり悪口罵詈訾等し及び刀杖を加ふる者有らん、我等皆当に忍ぶべし。悪世の中の比丘は邪智にして心てんごく諂曲に未だ得ざるを為れ得たりと謂ひ我慢の心充滿せん。或は阿練若に納衣にして空閑に在って自ら真の道を行ずと謂ひて人間を輕賤する者有らん。利養に貪著するが故に白衣の与に法を説いて世に恭敬せらるゝことを為ること六通の羅漢の如くならん。常に大衆の中に在つて我等をそし毀らんと欲する故に、国王大臣・波羅門居士及び余の比丘衆に向つて誹謗して我が悪を説いて是邪見の人外道の論議を説くと謂はん。濁劫悪世の中には多く諸の恐怖有らん。悪鬼其の身に入りて我を罵詈毀辱せん」。「濁世の悪比丘は仏の方便随宜所説の法を知らず。悪口して而もひんじゆく鬻しばしばひんずい鬻し数々擯出せられん」。「大神力を現じ広長舌を出だしてかみ上梵世に至らしむ」。「諸仏も亦復是くの如く広長舌を出だしたまふ」。

